

平成29年度 事業計画書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

《 事業概要 》

景気は緩やかな回復基調にあるとされていますが、依然として実感できない人が多い状況にあり、海外の不安定な情勢などから先行き不透明感を懸念する声も多い。満期が到来した高利回りの債券の買替により、平成28年度以降の基本財産運用益が大幅に減少する中で、長期金利はゼロ%近辺で推移する見通しとなっており、当研究所の財政運営は厳しい状況が続くものと予測されます。こうしたことから成長・競争型資金の獲得、受託事業の確保に努めるとともに、より一層の経費節減に努めていきます。

公益目的事業では、急速な高齢化など時代が大きく変化する中で、豊田市の直面する交通政策課題、将来のあるべき姿を念頭に、愛知県、豊田市、トヨタ自動車及び関係機関と連携し、交通安全、交通円滑化、公共交通、環境の重点4分野を中心に、ニーズを的確に捉え、当研究所ならではの自主研究にチャレンジするとともに、これまで蓄積してきたデータベース、成果を活かし、受託事業に取り組んでいきます。

また、当研究所の活動、研究成果を様々な機会を捉えて情報発信していくことで、豊田市はもとより、国内外の地方都市で持続可能な交通まちづくり施策に反映されるよう社会貢献していきます。

なお、現在の中期ビジョンは、平成21年度から平成30年度を期間として策定（平成25年度見直し）し、期間を2年あまり残していますが、自動運転に代表される技術革新が急速に進むなど、交通まちづくりを取り巻く環境が大きく変化し続けていること、超低金利が続く中で、厳しい経営環境が今後も続くことと予想されることから、1年前倒しで今後の方向性を定める戦略的な新中期ビジョンを策定します。

《 公益目的事業 》

1 調査・研究（自主事業8件・受託事業7件＝計15件）

※受託事業は、現段階で想定される事業の件数のみを掲載します。

(1)交通安全分野（自主事業3件・受託事業4件）

平成28年の日本全国の交通事故死者数（24時間以内）が3,904人となり、67年ぶりの3,000人台となりました。一方、愛知県においては、相変わらず全国ワースト1の212人であります。前年比でわずか1人の減少であり、交通安全が依然として喫緊の社会的課題であると認識しています。

これらを背景に、平成29年度の自主事業は、これまで行ってきた生活道路における交通安全対策に寄与する研究を継続しつつ、近年大変注目されている高齢者や無信号交差点での交通安全等をテーマに設定しました。

①高齢運転者の増加を考慮した安全・安心なモビリティ実現を目指した研究

- ・新規事業として、2箇年度にわたり実施します。
- ・高齢者の自動車運転による正の効果（生活の質の向上）を調査し、評価できる仕組みを検討します。また、高齢者運転による負の影響（交通事故の増加）を分析し、高齢者の属性、低下した能力に応じた支援システムを提案します。

②無信号横断歩道での安全に関する基礎研究

- ・無信号交差点での横断中事故防止を目標に ①無信号横断歩道の危険要因、②ドライバーの安全な停止行動、③歩行者の安全な横断行動に関する基礎的知見を得ます。

③車両挙動を考慮した生活道路における高齢運転者への助言型 I S A 効果検証

- ・車両挙動分析の結果を用いて、助言型 I S A が生活道路における運転者の速度遵守行動に及ぼす影響を把握し助言型 I S A 機器の実導入にあたっての基礎的知見を得ます。

(2)交通円滑化分野（受託事業2件）

本分野については、豊田市内の交通状況の変化を踏まえた上で、実社会で直面している課題解決に繋がる受託研究に力点を置き取り組みます。また、公共交通の利用促進や多様なモビリティの活用と連携した研究活動を進めます。

(3)公共交通分野（自主事業1件）

平成27年度から平成28年度に受託研究や自主研究で蓄積したタクシー関連の研究成果をベースに、「タクシーの活用」を念頭に新たな研究テーマに取り組み、具体的な外出支援策の提案に繋がります。

①豊田市におけるタクシーを活用した外出支援策に関する研究

- ・豊田市において、タクシーを活用した公共交通施策を展開するための提案を行うための知見を得ます。

(4)環境・総合分野（自主事業4件・受託事業1件）

本分野では、「環境」面からアプローチするテーマのほか、「自動運転」「国際的視点」及び「立地適正化」面からアプローチするテーマを、総合分野として取り組みます。

①多様なモビリティ共存による低炭素交通実現研究

- ・多くの自治体でCO₂削減目標と実績値には大きな乖離が生じていることは、各種施策の定量的な効果評価が不十分であったためとも考えられます。そこで、次世代自動車普及反映効果を反映できていないCO₂排出量算定の方法改善に着目し、ライフサイクル・アセスメント(LCA)の観点も含めた自動車のCO₂排出原単位の整理を行います。

②自動運転の普及がもたらす都市交通への影響に関する研究

- ・平成28年度の研究成果も取り入れ、自動運転時代の社会像(ビジョン)を提示します。その上、自動運転を社会に実装する際に必要となる検討事項を抽出し、考え得るルールを提案します。

③中国の都市における交通まちづくりの現状と将来に向けての動向に関する調査

- ・中国でのITSを始めとする最新技術を活用したスマートシティ(交通まちづくり)の現状と最新動向を把握する。併せて、今後の日本のまちづくりの参考となる知見を得ます。

④立地適正化を見据えた豊田市の人口動態に関する基礎的調査研究

- ・平成21年以降の豊田市人口の社会減が続いている現況を鑑み、立地適正化の観点から見た豊田市の宅地供給に関する課題整理と対応方策の提案をします。特に、無秩序な宅地開発を許すと、長期的には都市経営の負担となり、居住者にとってもモビリティやコミュニティの点から住みにくい街となることに注目的分析をします。

2 報告会・セミナー

- (1)研究成果報告会・講演会（平成29年7月6日開催）
- (2)豊田まちと交通勉強会（まちべん）

3 資料発行

- (1)機関紙「まちと交通」（年4回発行）
- (2)年報（平成29年6月発行予定）
- (3)その他資料

4 その他

研究企画委員会（年5回開催）

《 法人運営 》

法令又は定款等に基づき、評議員会、理事会及び監事会を運営